

ぶどうのクビアカスカシバに対する効果的な薬剤処理方法

山形県農業総合研究センター園芸試験場

研究のねらい

ぶどうを加害するクビアカスカシバは産卵数が多く、幼虫は樹内を食害するため、通常の薬剤散布のみでは被害を抑えにくい。そこで、樹幹部に薬剤を塗布する方法や枝、幹の虫糞排出孔（食入孔）へ薬剤を噴射する方法を併用することで、防除効果が高まることを明らかにした。

研究の成果

- ① 粗皮削りを行った樹で成虫発生前の5月下旬頃に、1樹につきジノテフラン水溶剤（商品名：アルバリン顆粒水溶剤またはスタークル顆粒水溶剤）40gを同量の水に溶かして主幹から主枝の樹幹部（50cm以上の幅で環状に剥いだ部分）に塗布すると被害が軽減される（写真1、2、図1）。
- ② 幼虫食入時にみられる虫糞排出孔（食入孔）にフェンプロパトリンエアゾール剤（商品名：ロビンフード）の専用ノズル先端を差し込み、薬剤が食入孔から逆流するまで2～10秒間噴射しながら押し込むことにより、樹幹内に潜む幼虫を駆除できる（写真3、図2）。



写真1 主幹部塗布処理の様子



写真2 薬剤塗布直後の樹体



写真3 虫糞排出孔への噴射



図1 ジノテフラン剤塗布の効果（平成30年）

注) 樹幹部塗布日：平成30年5月24日

調査樹：「高尾」15年生樹、雨よけ栽培

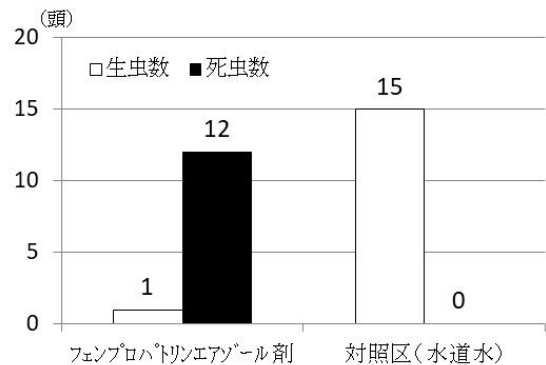


図2 噴射処理7日後の幼虫数（平成29年）

注) 噴射処理日：平成29年8月17日

調査樹：「高尾」14年生樹、雨よけ栽培